

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	高花 えい こ
視察地	那覇市		
調査事項	新真和志複合施設建設について		
視察年月日	令和5年11月7日		
視察内容	<p><建設経過・スケジュール・課題・展望等について></p> <ul style="list-style-type: none">・真和志支所は建設して50年が経過し、近くの川の影響で塩害もあることから老朽化が早く、平成23年、市長より支所、公民館、図書館などの複合施設、また今後は水害にも対応できる施設を建設する構想案が発表されました。5年間、市民会館の跡地について議論し、平成28年、自治会長連絡協議会より市民会館跡地への早期建替えの要望もあり、同年に検討委員会を設置。翌年、地域住民、施設利用者の意見を聞く場として、利用者代表会議も設置。・建設位置などサウンディング型（民間事業者の意見等）市場調査を実施され、PPP（公民連携）によるコスト削減効果を確認。最終的に建設場所は、老朽化や地震の安全性が難しく、平成28年から休館となっていた現市民会館の跡地に決まり、事業手法はDBO方式（設計・維持管理等一括発注）で決定。設計時の課題は、交付金は単年度のため確保されているわけではないこと、また事業契約期間が令和6年から同29年と長期のため、物価変動も予想されること。さらに途中、不発弾が発見され、工事が一時休止されるなど様々な問題があったが、丁寧に民間事業者と市民の声を聞きながら、建設地を決定されたと伺いました。・また、複合施設の概要は、真和志支所・中央公民館・中央図書館・こども発達支援センター・障がい福祉センター・精神障がい者地域生活支援センター・教育研究所の7施設を集約した複合施設です。財源は、沖縄振興特別推進交付金、地方債、一般財源であり、PFI方式に基づき財政負担の軽減を行うそうです。延床面積5,000㎡と聞き、本市の市民文化会館の延床面積の、12,394㎡と比べると半分以下の延床面積にもかかわらず、これだけの複合施設を建設されることに驚きましたが、那覇市は、次世代に負担をのこさない公共施設の在り方について、施設総量の縮減を掲げ、今後40年間で総床面積を15%から20%縮減することを目標としていることを鑑みると老朽化した複数の公共施設の複合化・共有化は必然と思えます。さらに、真和志地域は高齢化率が高く、将来的には人口が大きく減少することも予想されましたので、広い延床面積ではないが、妥当な大きさなのだろうと感じました。・単なる複合化、施設総量の縮減だけではなく、市民が気軽に訪れ、活動することで、市民の幸せやまちの賑わいを創り出す施設を目指しており、「<u>ま</u>ちの力が <u>わ</u>になり 広がる <u>し</u>あわせ にぎわい 創造施設」をコンセプトとして実施方針を定めていました。・本市においても、支所にこれだけの機能を持つ複合施設なら、本庁舎から遠い市民の方にとっては嬉しい内容と考えます。また、公共施設マネジメント計画に沿って、誰もが納得できる市民文化会館を建設して欲しいと思いました。・本市でも、市民文化会館の建替えについて検討委員会が設置され、今年度中に実施計画が策定されますが、那覇市のように、よく利用されている関係団体や市民の声を広く聞いて頂き、場所の選定、ホールの客席数、大・中・小ホールの利用頻度から本当に必要なホール・客席数の確保の検討を願います。		

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	高花 えいこ
視察地	浦添市		
調査事項	美味しい給食推進事業について／認可外保育園への配食サービス事業について		
視察年月日	令和5年11月8日		
視察内容	<p><事業実施までの経緯・効果・課題等について></p> <p>美味しい給食推進事業について</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度から開始され、市長自ら取り組んでいきたいと市政方針の中に入れていた事業でありました。浦添市の給食費は14年間据え置きで、現在の物価高騰対応と給食の充実を図るため、小学生で400円、中学生で500円（総額5,800万円）を公費で上乗せして学校給食の安定と充実を図られていました。保護者からも感謝されているそうです。市長は3期目で、1期目の時から給食費の無償化を公約としていて、無償化について相談されたこともあったそうですが、現実的に難しいと答えられたようです。しかしその後、キッズファースト宣言をされ、何よりも子どもたちを優先したいと伺い、その思いに感銘しました。また、事業名をどうするか、とても悩まれたそうで、給食の中身として地産地消、食育などの目標があり、やはり美味しい食材ということから、このネーミングにしたとの事。「美味しい」という言葉を使用され、食材に自信なければつけれないと思いました。この事業のきっかけは、令和3年からの新型コロナウイルスの影響による物価高騰により維持が難しく、臨時交付金で乗り越えてきたものの、今後どうするか、値上げか、補助金か、保護者負担なのか等を議論した結果でありました。驚いたことが何点もあり、一つは、市内の中学校3年生のみ琉球漆器を年1～2回だけ使用する予定で、郷土愛などを育むための施策の一つとされていました。これは、林野庁の補助金で300セット購入したようです。（ちなみに小学校の食器はPEN食器）残菜は令和3年度より減っているそうですが、メニューがワンパターンにならないよう栄養士の献立内容も工夫されていました。さらに驚いたことは、一番の人気メニューが揚げパンで、不登校の児童生徒のなかには、この日だけ登校することもあるそうです。このように、子どもの貧困対策や貧困世帯、不登校の減少に「美味しい給食」が一躍を担っていました。また、浦添市漁業組合と地元企業の協力で、そでイカの提供も考案中で地元企業の育成につながることも考えていました。 <p>認可外保育園への配食サービス事業について</p> <ul style="list-style-type: none">給食をケータリングにして、職員の負担軽減を図られていました。給食を出すために職員が1日3時間も取られる実態に加え、保育士不足、共働き率が高く、出生率も高い、米軍の影響で保育の整備が遅れていたなどの背景から事業に至ったと伺いました。ケータリングという発想にも驚きです。		

(様式)

- ・本市でも保育士不足、一時的な待機児童など課題はあり、保育園現場の配食の人員など様々であることから、今後取り入れてみても良いと思いました。食では本市も地元産品がたくさんある事から、浦添市のように産業振興課と連携して地元企業の協力でおいしい給食が提供できると思います。
- ・最後に、説明終了後に、議会事務局長の計らいで、美味しい給食を試食させて頂く機会を得ました。地元牛乳がとても甘かったのが印象的でした。大変にありがとうございました。

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	高花 えいこ
視察地	渋谷区		
調査事項	部活動地域移行について		
視察年月日	令和5年11月9日		
視察内容	<p><事業に至るまでの経緯・課題・効果など></p> <ul style="list-style-type: none">・ 区長の強いリーダーシップの下で実現した事業であり、スピーディーに進めたいと一般社団法人渋谷ユナイテッドを設立。代表理事には前渋谷区教育長が就任されていました。生徒にとって望ましい部活動の環境の構築と学校の働き方改革も考慮して地域移行を実現。この事業はキーマンは、区長と元教育長、そしてプロのアスリートなどに恵まれていることが実施できる要因と思いました。なかでも、元教育長が理事長ということから8校の校長とスムーズに課題を押えることが出来、どんな部活動が欲しいかなど中学生へのアンケートを実施し、基本は土曜日に、9部活動10種目を実施。ボウリング、ダンス、ヒップホップ、フェンシング、ボッチャなど中には珍しいクラブもありました。特に、ボッチャに関しては特別支援学校に配置されて適切と思いました。・ 誰でも関われる内容に共感です。連盟が渋谷区にある将棋など好条件のクラブがあったり、近年の傾向なのかプログラミングやeスポーツなどは人気だそうです。都会の渋谷区でも学校によってサッカー部など11人集まる事が出来ない事象があり、スポーツ庁の地域部活動推進事業の地域モデル種目として実施していました。料理・スイーツマスターはあの有名な服部栄養専門学校が支援事業者となっており、文化庁の地域部活動推進事業に指定されています。・ この事業にいたっては、区よりスポーツ活動活性化事業として6,147万円の補助があり、中学校部活動事業費として36,475千円の委託料が発生していました。・ 今後の展望として、ボッチャなど高校との連携を進めていきたいそうです。また、教職員からも、教材研究に時間を使えて土日も有効活動でき、大きなクレームもないそうです。・ 課題は、ラグビーは人数が少なく、屋上に砂をまき、ほとんどマンツーマン。ダンスなどは発表の場がないことから民間の施設で発表出来るように考えられていました。・ 中体連などに参加するだけでなく、生徒個人にとって望ましい部活動の環境でした。・ 行政の中にスポーツ部があり、教育委員会と連携しているところが本市と違うところと痛感。中学校の部活動だから教育委員会が主導するものと考えがちですが、渋谷区のように専門に維持管理できる協会を設置することができれば、大きな改革になると思いました。本市にはスポーツアンバサダーもいることなどから、子どもたちにどのような影響を与えていくのか今ひとつ不透明に感じます。・ 決してアスリートを育てることが目標ではなく、一度しかない中学校時代の部活動が人生に影響を与えることもあると考慮して、渋谷区は事業を推進されていることが伝わってきました。その熱量が本市にも必要かもしれないと思いました。ただ、プロのアスリートの指導が受けられる渋谷区の恵まれた環境と思いつつも、本市だからできる冬のスポーツは強みであると感じることから、是非モデル校などを決めて、できるところから部活動地域移行を行ってみてはどうかと思います。		